

令和 5 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター 芸術資源活用プロジェクト 実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトの タイトル	藝大校歌再生活動	
実施責任者 (申請代表者)	氏名	所属／学年／役職 (所属がない方は未記入)
	高田清花	美術学部先端芸術表現科 3 年
実施期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日	
B	<p>本助成金を活用させていただいた内容は、以下の 2 つです。</p> <p>① 2023 年 4 月～2024 年 3 月:インタビューの実施、撮影</p> <p>藝大の同窓会「杜の会」、「同声会」会報チラシ同封の実施や、総務課にもご協力いただきながら、</p> <ul style="list-style-type: none">・先輩方：東京美術学校、東京音楽学校、東京藝術大学卒業生の方々・うた作者のご親族：「東京美術学校校歌」、「東京美術学校学生歌」、「東京音楽学校学生歌」作者のご親族の方々・当活動メンバー <p>へのインタビューを実施し、撮影も行った。</p> <p>実施場所：東京近郊、太宰府、その他インタビュー対象者の方々のいらっしゃる地域</p> <p>② 2024 年 3 月 27 日奏楽堂企画公演開催</p> <p>①で撮影した内容を含めた活動の紹介ドキュメンタリー映像を上映した。</p>	
実績報告	<p>史料やその調査から発見した「藝大に纏わるうた」の再生を通して出会った、当時学生としてそれらを歌っていた大先輩に当たるの方々などにインタビューを実施し、個人の記憶に基づく「生の」歴史・物語に多数触れることができた。</p> <p>インタビュー対象になった主に卒業生や作者のご親族の方々には 80 代、90 代とかなりご高齢であり、インタビューは対面で行うほか選択肢がなかったが、本助成金の活用により、直接お目にかかりお話を伺うことが叶った。</p> <p>人とのつながりが軽薄になり、芸術が不要不急だと呼ばれてしまったコロナ禍を経て、東京音楽学校や藝大音楽学部が全国各地に極めて多くの数を提供する役割を担ってきた校歌や唱歌などの「うた」というものが、いかに根源的なコミュニケーションの手段であるのかを痛感した。それは同時に、書面的な史料を読んで理解を深めていくという行為から、「共通のうた」を通して、よりリアリティを帯びた歴史への触れ方を開拓することができたとも言える。</p> <p>さらにそんなインタビュー活動を撮影・映像化させ 3 月に開催した奏楽堂企画にて上映したことで、普段藝大の歴史を学ぶ機会が少ない藝大生自身や、唯一の国立芸術大学としての藝大にも興味がある社会の方々などと、日本の芸術を最前線で率いた大先輩の「生の声」からみる藝大の歴史を共有できた。</p> <p>当活動は今年度、インタビューや公演までの活動を基にした刊行物制作や映像制作を創作・展開していく。</p>	

※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。
(500～600 字)

※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。
(必須)



※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。(必須ではありません)